

令和 5 年 4 月 9 日現在

機関番号：32719

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10748

研究課題名（和文）新卒看護師の職場サポートプログラムの開発

研究課題名（英文）Development of workplace support programs for new graduate nurses

研究代表者

中澤 沙織（Nakazawa, Saori）

松蔭大学・看護学部看護学科・助教

研究者番号：50784477

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：新卒看護師のバーンアウトを予防し、職務を継続するためのサポートプログラムを構築することを目的として研究を実施した。研究1として新卒看護師が認識する実地指導者のサポートを質的研究にて明らかにした。研究2として質的研究および先行文献を基に【実践面のサポート】と【情緒面のサポート】の下位尺度で構成された「新卒看護師が認識する実地指導者のサポート評価尺度」を開発した。研究3として、首都圏内の新卒看護師を対象に調査を行い、【職務への不満】と、【新卒看護師が認識する実地指導者のサポート】が高いほどバーンアウトを低減することを共分散構造分析にて明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療の進歩や少子高齢化などを背景に、看護師の業務は益々複雑化・多様化している。今後の看護を担う新卒看護師のバーンアウトを予防することは患者に安全な医療を提供することや離職を予防することにつながる。本研究結果から、職務への不満を軽減することや、実地指導者からのサポートの認識を高めることがバーンアウトを予防するうえで重要である。職務不満を軽減するためには職場環境を調整すること、サポートの認識を高めるためには、サポートの認識を明らかにした上で、この結果を基に実地指導者への研修などを行うことも新卒看護師のバーンアウトを予防するうえで有効であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：A study was conducted with the aim of constructing a support program to prevent burnout of newly graduated nurses and to continue their duties. As research 1, we clarified the support of practical instructors perceived by new graduate nurses in a qualitative study. As research 2, based on qualitative research and previous literature, we developed the "Support evaluation scale for practical instructors recognized by new graduate nurses" consisting of subscales of [practical support] and [emotional support]. As research 3, we conducted a survey of newly graduated nurses in the Tokyo metropolitan area, and found that the higher the levels of [dissatisfaction with the job] and [the support of practical instructors perceived by new graduate nurses], the lower the burnout. This was clarified by structural analysis.

研究分野：看護管理

キーワード：新卒看護師 バーンアウト サポート

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 医療技術の高度化、在院日数の短縮化、看護業務の複雑化・多様化などによって看護師の需要は増加し、慢性的な看護職不足となっている。このような背景において、次世代の医療・看護を担う新卒看護師の確保や定着は重要な課題である。看護師のバーンアウトに関する研究は積み重ねられ、看護師がバーンアウトしていると、患者の満足度の低下、医療事故、離職に至ることが明らかとなっており、バーンアウト予防対策を講じることは急務である。

(2) 日本看護協会による新卒看護師の離職に関する調査では、看護基礎教育で修得する看護実践能力と現場で求められる臨床看護実践能力の乖離が一因と報告され、これを契機に、新人看護職員研修の努力義務化や、新人看護職員研修ガイドラインが作成され、職場内のOJTにおける、新卒看護師の指導や評価を行う実地指導者の役割の重要性は益々高まっている。これまで、新卒看護師が認識する実地指導者のサポートの実態や、サポートの内容を明確化した研究はいくつか報告されている。主な内容として、看護技術や看護実践に関する指導や、不安に思った時、困った時などに話を聴いてもらうなどの精神的サポートを受けていることが報告されている。さらに、実地指導者からサポートを受けていると認識している新卒看護師はバーンアウトしにくいことも報告されている。

(3) 新卒看護師のサポートの認識を測定する尺度として、一般企業の社員を対象として作成されたソーシャルサポート尺度や職場支援尺度が使用されており、新卒看護師が認識する実地指導者のサポートを定量的に測定できる尺度は見当たらない。そこで本研究では、新卒看護師が認識する実地指導者のサポートを定量的に測定できる尺度を開発する必要があると考えた。さらに、新卒看護師が認識する実地指導者のサポートがバーンアウトに及ぼす影響を明らかにし、新卒看護師がバーンアウトせずに働き続けられるための新卒看護師のサポートプログラムを作成することとした。

2. 研究の目的

(1) 新卒看護師が認識する実地指導者のサポートを定性的に明らかにする。

(2) 新卒看護師が認識する実地指導者のサポートを定量的に測定できる尺度を開発する。

(3) 新卒看護師が認識する実地指導者のサポートがバーンアウトに及ぼす影響を明らかにし、新卒看護師がバーンアウトせずに働き続けられるための新卒看護師のサポートプログラムを作成する。

3. 研究の方法

(1) 新卒看護師が認識する実地指導者のサポートの概念化

2018年2月にA県内の大学病院2施設のいずれかに勤務し、研究協力に同意が得られた7名の新卒看護師を対象にグループインタビューを実施した。分析は、新卒看護師が効果的であると認識する実地指導者からのサポートについて語られている内容を一文章一意味となるようフレーズとして抽出し質的帰納的に分析した。これらの分析の過程において新卒看護師の研究を行っている複数の研究者と検討を重ねた。

(2) 新卒看護師が認識する実地指導者のサポート評価尺度の開発

新卒看護師のサポートに関する文献と質的研究を基に尺度原案を作成した。首都圏内にある大学病院と国立系病院10施設の新卒看護師を対象に質問紙調査を行い、尺度の妥当性と信頼性を検証した。分析は、項目分析、探索的因子分析(最尤法、プロマックス回転)、確証的因子分析、基準関連妥当性の検討、Kaiser-Meyer-Olkin(以下、KMO)、クロンバック 信頼係数、再テスト法を実施した。

(3) 新卒看護師が認識する実地指導者のサポートがバーンアウトに及ぼす影響

首都圏内にある大学病院と国立系病院10施設の新卒看護師を対象に質問紙調査を行い、新卒看護師が認識する実地指導者のサポートがバーンアウトに及ぼす影響を明らかにした。先行文献等により質問項目を用い、重回帰分析で選択された変数を用い、NIOSHの職業性ストレスモデルおよびJD-Rモデルを基に共分散構造分析を行った。

4. 研究成果

(1) 新卒看護師が認識する実地指導者のサポートの概念化

新卒看護師が効果的と認識する実地指導者からのサポートとして69コードが抽出され、20小カテゴリー、5中カテゴリー、2大カテゴリーに集約された。1つ目の【業務的サポート】は、

《看護実践を遂行するためのサポート》、《看護実践を意味づけるサポート》などの内容で構成されていた。2つ目の【情緒的サポート】は《承認に関するサポート》、《受容に関するサポート》の内容で構成されていた。

(2) 新卒看護師が認識する実地指導者のサポート評価尺度の開発

首都圏内の新卒看護師 553 名 (72.2%) を有効回答とした。本研究対象者の平均年齢は 23.3±2.9 歳であり、性別は男性 49 名 (8.9%)、女性 504 名 (91.1%) であった。構成概念妥当性は、項目分析により抽出された 25 項目を用いて探索的因子分析を実施した。初期の固有値の変化とスクリープロットから 2 因子と判断し、固有値 1 以上、因子負荷量 .40 以上、因子負荷量が 2 因子に所属していないことを基準として、最尤法、プロマックス回転での因子分析を行った。2 因子 17 項目を抽出し累積寄与率は 62.87%、因子間相関は .719 であった。第 1 因子は「新卒看護師が看護を実践できるよう業務の優先順位をつけられるよう指導してくれる」、「実践した看護実践と一緒に振り返ってくれる」、「根拠に基づいて看護実践を教えてくれる」、「失敗したときその原因や解決策と一緒に考えてくれる」、「看護技術を経験できるよう機会をつくってくれる」、「お手本となってくれる」等の 11 項目で構成されており、新卒看護師が看護師として必要な知識、技術、態度を習得し、患者の安全・安楽に配慮しながら看護を実践するために必要なサポート内容と解釈し【実践面のサポート】と命名した。第 2 因子は「気分転換をしようすすめてくれる」、「悩みや不安を聴いてくれる」、「状況を気にかけて声をかけてくれる」、「話やすい雰囲気をつくってくれる」等の 6 項目で構成されており、新卒看護師に生じる感情を、気分転換の推奨、心地良い雰囲気作り、傾聴、心配り、承認によって安定させるために必要なサポート内容と解釈し【情緒面のサポート】と命名した。確認的因子分析は、2 因子 17 項目のモデルの適合度指標を確認した結果、GFI=.903、AGFI=.875、RMSEA=.072 ($p<.01$) であった。基準関連妥当性として、本尺度の総合得点と看護師におけるメンタリング機能尺度の総合得点および両尺度の各下位尺度得点の相関係数は、順に .723 ($p<.01$)、.476 ~ .663 ($p<.01$) であった。標本妥当性として KMO の標本妥当性は .958 であった。内的整合性として、尺度全体と各下位尺度のクロンバック 信頼係数を算出したところ、尺度全体が .952、第 1 因子が .937、第 2 因子が .929 であった。時間的安定性としてテスト - 再テストによる級内相関係数は $r=.697$ ($p<.01$) であった。以上から、妥当性と信頼性が確保された尺度が開発された。

(3) 新卒看護師が認識する実地指導者のサポートがバーンアウトに及ぼす影響

首都圏内の大学病院および国立系病院の新卒看護師 765 名を対象に無記名自記式質問紙調査を行い、有効回答者は新卒看護師 520 名であった。(以下、括弧内はパス係数：P 値、R²：説明率を示す) バーンアウトの影響要因として、「実践面のサポート」と「情緒面のサポート」で構成された【実地指導者からのサポート】は、バーンアウトに直接的に影響していた (-0.21 ; $P<0.01$ 、 0.66)。また「全く別に仕事に就きたい」、「1 週間の超過勤務が 5 時間以上」、「勤務場所が希望の配置ではなく不満」で構成された【職務への不満】もバーンアウトに直接的に影響していた (0.71 ; $P<0.01$ 、 0.66)。「看護をすることが楽しい」、「仕事と私生活の両立」、「看護をすることに自信がある」、「価値ある人間であると思う」で構成された【看護の充実感】はバーンアウトには直接的に影響していなかった。職務不満や実地指導者のサポートは新卒看護師のバーンアウトを低減することが明らかとなった。先行研究では同様の結果は見当らず、本研究の新知見であると考えられる。新卒看護師における職務への不満を低減し実地指導者のサポートを高めることでバーンアウトを低減することが明らかとなった。

新卒看護師のバーンアウトを予防するための対策として、職場の管理者が新卒看護師の状況を適宜確認し、残業を減らす、希望の部署に配属させるなど、職場環境を調整していくことが必要である。また、実地指導者のサポートの認識を高めるために、サポートの認識の程度を確認したうえで、この結果を基に実地指導者に研修等を行っていくことも有効であると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Nakazawa Saori, Suzuki Eiko, Kawamura Harumi, Tanabe Sachiko	4. 巻 41
2. 論文標題 Development of a Support Assessment Scale of On-site Nursing Instructors Based on the Perceptions of Novice Nurses	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Japan Academy of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 787 ~ 795
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.41.787	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤沙織, 鈴木英子, 川村晴美, 田辺 幸子	4. 巻 29
2. 論文標題 新卒看護師が効果的と認識する実地指導者からのサポート グループインタビューを用いて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本健康医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 450-456
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20685/kenkouigaku.29.4_450	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 中澤沙織, 鈴木英子, 川村晴美, 田辺 幸子
2. 発表標題 新卒看護師における実地指導者のサポートの認識とバーンアウトの関連
3. 学会等名 日本健康医学会雑誌
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Saori Nakazawa, Harumi Kawamura, Sachiko Tanabe
2. 発表標題 Influence of support by on-site nursing instructors on burnout
3. 学会等名 25th East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中澤沙織, 鈴木英子, 川村晴美, 田辺 幸子
2. 発表標題 新卒看護師が認識する実地指導者からのサポート グループインタビューを用いて
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中澤 沙織, 鈴木 英子, 川村 晴美, 田辺 幸子
2. 発表標題 新卒看護師が認識する実地指導者のサポート評価尺度の開発及び信頼性・妥当性の検証
3. 学会等名 日本健康医学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 英子 (Suzuki Eiko) (20299879)	国際医療福祉大学・医療福祉学研究所・教授 (32206)	
研究分担者	富田 幸江 (Tomita Sachie) (50331567)	松蔭大学・公私立大学の部局等・教授 (32719)	
研究分担者	横山 ひろみ (Yokoyama Hiromi) (30795521)	埼玉医科大学・保健医療学部・准教授 (32409)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	千葉 今日子 (Chiba Kyoko) (00761181)	埼玉医科大学・保健医療学部・講師 (32409)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関